

CJM REPORTER

カナディアン ジャパニーズ ミニストリー (CJM) 2006年春号



60周年記念



1942

2006年6月24日

CJMはあなたに感動を与えている
でしょうか？もしそうでしたら是非
ご参加下さい！

祝賀晩餐会

2006年6月24日 (土) 午後5時半
Floata Seafood Restaurant
4380 No.3 Road, Richmond, BC

お早めにお申し込み下さい！

申し込みや詳細につきましては下記ま
でご連絡ください。

Mrs. Machiko Budai
7451 Francis Road,
Richmond, BC V6Y 1A1
604-277-3925
Email: Kuroy@shaw.ca

CJM 年次総会—6月23日 (金) 午後7時半
CJM理事会—6月24日 (土) 午前9時
どちらの会議も下記の場所になります。

New Westminster Evan. Free Church
7895 Canada Way, Burnaby, BC

1946



CANADIAN JAPANESE MISSION

アルバータに発つ前、私はこの
活動の土台作りの為の委員が必要
であることを牧師に伝えました。
主は、カナダに住む日本人
に伝道していく働きに何人かを
召してください、1946年、その
呼びかけに回答した人々によっ
て委員会が形成されました。そ
して、私達の目的を最も明確に
表すことから、「カナディアン
・ジャパニーズ・ミッション」
の名が選ばれました。

(CJMヒストリースケッチp11よ
り)



Margaret & her mother,
Georgia Ridgway
Vancouver, BC

私は、1942年の春の日に目に止まった、古代
預言者の言葉忘れることはないでしょう。

“山に登り…神殿を建てよ。わたしはそれを
喜び、栄光を受ける…わたしはあなたたちと
共にいる…恐れてはならない。”

私はバンクーバーの自宅の台所で、開いた聖
書を前にしてひざまづいていました。そして
喜び、しかし厳粛な気持ちで立ち上がりました。
主が語りかけて下さっていたのです。そ
の語りかけが私の進むべき方角の確かな道し
るべとなりました。神は私が家や教会、全て
の慣れ親しんだ環境を後にし、住居や生活を
奪われ、コートニーやスロカン川の細い谷間
の仮住まいに送られた日本人を追うように示
して下さいました。

(マーガレットの証しの書き出し— CJM ヒ
ストリースケッチ1978年より) *

どのように CJM は設立されたので
すか？

1942年、第二次世界大戦の最中に日
本人が太平洋岸から撤退させられた
時、マーガレット・リッジウェイ氏
は途方にくれた日本人に福音の励ま
しをもたらす必要と機会に気づき、
ブリティッシュコロンビア州の奥地
に同行しました。

神の祝福の中、彼女の働きは成長
し、広がっていきました。1948年
には、CJMはアルバータ州法の下に
法人化されました。この福音の働
きは今ではオンタリオ、アルバータ、
ブリティッシュコロンビアの3州で
続けられています。何人もの日本人
の若者が CJM を通して救われ、ま
た養われ、自分の住んでいる場所や
宣教地において、牧師、宣教師また
その他の奉仕者として奉仕していま
す。その他奉仕者となるための訓練
を受けている人もいます。

(CJM 通信より)

レスブリッジ ジャパニーズ クリスチャン フェロシップ

秋山賢牧師



秋山賢牧師 真理夫人
創平君(7) 有紗ちゃん(5)

夏のサニーサイドキャンプでイエス様を救い主として受け入れた4名の高校生の洗礼式を10月16日に行いました。

この4名と同じ様に1年の留学で来ていた高校生、児玉友佑君も加え5名の洗礼式には、100名を超える方々が集まり、共に喜びを分かち合いました。すでに

彼らは日本に帰国。私達の祈りは彼らが、日本の教会にしっかりつながり、信仰生活を送っていくことです。

今年、レスブリッジジャパニーズクリスチャンフェロシップは、25周年を迎えます。フェロシップは、当時CJMの宣教師であった坂本トモ子先生によって始まり、その後、多くの先生方の献身的な働きにより続けられてきました。20周年を迎えた2001年には神様は、中尾善之介先生をフルタイムの牧師として導いてくださいました。教会では、秋頃に25周年を記念する特別礼拝をしたいと考えています。

今年の教会のテーマは、「神の家族としての教会を理解しよう」です。神の家族としての教会の結びつき(愛のフェロシップ)と神の家族としてのミニストリーにフォーカスして互いに祈りあい、励ましあいつつ、神様の御心になう教会として歩いていきたいと総会で確認しました。

私達がCJMの宣教師となってもなく2年。多くの方々、教会の祈りと経済的サポートに支えられ、またCJMの親身なサポートにより、私達は宣教の働きに安心して専心する事が許されてきました。本当に感謝です。引き続き、私達のため、教会のためお祈りください。よろしく願いいたします。



献金

秋山牧師ミニストリーのサポート、また一般会計への献金は、下記にお送り下さい。

CJM treasurer
Brenda Ohara-Peters
669 Hillman Cres.,
Mississauga, ON L4Y 2Y1

めぐみバプテスト教会 (バンクーバー)

協力伝道師 坂本トモ子



めぐみ教会の2005年は無牧師のまま過ぎ去りましたが、その間も力強い御手をもって御自の群れを支え持ち運んでくださった教会のかしらである主イエス様の御名を心から讃えます。又、信徒の皆さんがそれぞれの持ち場で熱心に主と人々に仕えてくださったことも、大いに教会を支えました。

いくつかの主要な課題のために、昨年の年間目標聖句「愛をもって互いに仕えなさい」ーガラテヤ5:13 aーというみことばの真理を否が応で実践を迫られた年でもありました。

無牧師の教会の現状維持として、月の半分はゲスト・スピーカーの諸先生方にメッセージを取り次いでいただきました。そして、1年を通して礼拝、祈り会、家庭集会などで「人生を導く5つの目的」からクリスチャン生活の

主要真理を学び祝福を受けました。

礼拝メッセージ、通訳、聖餐式、児童祝福など、過去二年間尊いご奉仕をしてくださった内田アキラ先生は、昨年末で辞任されました。めぐみ教会の大きな支えとなってくださったことを心から感謝します。一方、教会は、ポツカリと空いた穴を埋めるためにリーダーシップをそれぞれ分担して助け合っています。

このような現状ですが、今年こそは是非適当な牧会者を主に与えていただきたいということが最大の祈りと課題です。

「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。」ーヘブル12:2aー私たちは、このみことばを掲げて2006年を出発しました。イエス様に目を注がなければならないような大切なご計画が神様の側にあるようです。その神様に信頼して2006年を走り抜くことができますように、どうぞお祈りください。



ウエスレーチャペル日系教会

ニューウエストミンスター福音自由教会

吉田エドワード牧師

二世退役軍人、坂本アート氏とのインタビュー

どういふいきさつでカナダ軍隊に入隊することになったのですか？

私は第二次世界大戦中、強制撤退でB.C.州のレヴェルストック近くのキャンプ地に送られ、その後トロントへやって来ました。当時日本人の若い男性の仕事はそう簡単に見つからず、私は解体業者やレンガ工場で、毎日激しい肉体労働をしました。その後1942年に軍隊の召集があり、志願しました。



その時、あなたは何歳で、どこで軍事訓練を受けたのですか？

当時、私は26歳で、軍事訓練はトロントのCNEで行われました。その後、バンクーバーでの訓練中に終戦し、U.K.で訓練を終了した後、インドのMADRASに移されました。

任地はどこで、どのような役割だったのですか？

インドからオーストラリアの軍隊と合流し、香港と上海を経由して、日本に行きました。私達は呉市に到着し、数ヶ月、港の修復作業を行いました。その後、岡山の英インド軍事区でも働きました。

除隊した後の生活はどうでしたか？

トロントに戻り、仕事を見つけたものの、ギャンブルにはまってしまいました。もし私の妻、アリア・グラシアスに出会っていなければ、私の人生は悲惨なものになっていたでしょう。彼女が私をギャンブルから救ってくれたのです。

アートさん、あなたは87歳という、長寿に祝福されていますが、あなたの人生の晩年の中で重大な出来事とは何ですか？

長年、無宗教で生きてきたのですが、私の妻と甥の影響受け、クリスチャンになり、2005年のイースターの日にウエスレーチャペル日系教会で洗礼を受けた事です。

インタビューのノート

現在、坂本氏はスカボローの高齢者住宅で一人暮らしをしています。夫人は痴呆症を煩い、同じ建物内の老人ホームに住んでいます。彼は献身的に夫人の見舞いを続けています。

ジェイコブ・フライセン牧師

ニューウエストミンスターの日本語部はいろいろな意味で独特の存在です。英語の礼拝に出席している方も何人かいます。日本人が大半を占める日本語部は、独立した形で日曜礼拝をもち、毎月聖書研究会も行っています。バンクーバー全域には、日本語を話す日本人や日系人がまだたくさんおり、その人たちに届いていくことも私達の使命です。



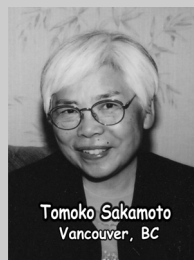
フライセン牧師
ジュンコ夫人

私の退職に伴い、後任の牧師を必要とする状況がありますが、神様は一人どころか二人の臨時牧会者を送って下さいました。ナカハラアケミさんはリージェントカレッジの学生で北海道の神学校を卒業しています。アケミさんは2007年の7月まで日本語のメッセージを務めてくださる予定です。またケニス・ストーム牧師は英語の礼拝を含め、教会全体の臨時主管牧師として、しばらくの間奉仕して下さることが決まりました。

神様は素晴らしい！信仰の道の著者である神様は、私を65年もの長い間、福音のための働き手として導き続けて下さいました。そのうち35年間は、福音伝道や開拓伝道に従事する楽しい時を日本で過ごし、その中で恵み深い神様は、素晴らしい妻をも与えて下さいました。妻は私の牧会のよき共労者であり、私を整え、祝福を受ける準備をしてくれました。

そして扉は開かれ、日系カナダ人をはじめとして多民族、多文化の人たちに牧師として奉仕していく光栄に与かりました。神様の、すべての人種、民族、文化、言葉にたいする深く大きな愛に触れた思いです。

永遠に主の御名が褒め称えられますように！



Tomoko Sakamoto
Vancouver, BC



エドモントン日系キリスト教会 新しいビジョンを求めて

エドモントン日系キリスト教会は2005年と2006年を通して教会ビジョンを求めて話し合いをもち続けています。そのプロセスは、教会の兄弟姉妹が、時間をかけて、ゆっくり、ビジョンを求めるやり方です。またそれは、私達の断食祈祷の訓練にもなっています。というのは、話し合いの前の日の午後1時から翌日の朝まで断食祈祷を行い、話し合いの朝に、教会に集まり、一緒に朝食をします。話し合いでは、まず一緒に祈り合い、議題にそって話し合いをします。最初に教会がどのように歩んできたか、教会の過去を振り返ります。そして現在の教会のあり方を評価します。そして将来の教会のビジョンを明確にするために教会使命宣言文



中野ユリ牧師



朝食交流会

を作成します。現在は、教会のビジョンを求める話し合いの最後の段階です。

この長いマラソンの様な話し合いが成功すれば、教会の大きな成長となることでしょう。この話し合いを通して、イエスキリストの教会として、主を待ち望む事と、主の御心を探り求める事の大切さを教えられました。そして私達の成長の鍵は、私達の祈りと御言葉による導きです。

3週間の間、日本の各地を訪問した日本祈りの伝道チームのために、お祈りをして下さった方々に感謝申し上げます。伝道チームは訪問先の教会で証しをしたり、共に祈り合いの時を持ちました。そして大変祝福された伝道旅行となりました。

バンクーバー日系福音教会

福迫徹也牧師

主の御名をほめたたえます。
CJM 関連教会の皆様の上に主の豊かな祝福を祈ります。

私たちの教会は今年の教会方針として「主イエス・キリストを宣べ伝える」をテーマにし、年間聖句としてⅡコリント4：5を選びました。

この地に建てられているキリストのからだとして、主イエス・キリストの福音を伝え、救われた人に洗礼を授け、キリストの弟子として行くことを通して主から与えられている宣教の使命を果たしていきたく願っています。



福迫牧師夫妻
シンヤ君(8)、ユウヤ君(6)
カズヤ君(4)、リナちゃん(2)

私たちの宣教の対象は引き続き、1.バンクーバー全域に住む日本人、日系人 2.地域に住む日本人以外の人々（現在、カナダ人だけでなく、韓国人、中国人の方々も集っています） 3.留学生やワーキングホリデーなどの日本からの一時滞在者などです。

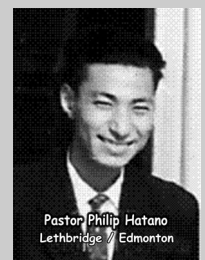
今年の教会方針を果たすための目標として以下のようなことを具体的にあげました。

1. 新来者を招き、引きつけ、定着させる教会を目指す。
2. 教会員がそれぞれの生活や職場などにおいて主を証し、教会の礼拝や集会に招く。
3. 教会のスマールグループが新来者の接点や受け皿となる。
4. 音楽を用いた活動を更に増やし、充実させていく。
5. 教会に来る新来者や求道者に明るく積極的に接する。

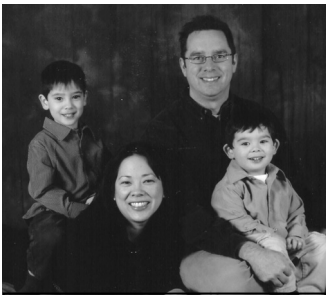
昨年の教会のテーマは「神の家族としての交わり」でしたが、私たちの教会が幼子からシニアまで全世代の方々が集う、明るく家庭的な雰囲気の教会であり、素晴らしい交わりが与えられていることを主に感謝しています。今年度は、更にこの交わりを外に広げて行く必要があると思われています。私たちの教会の働きを覚えてお祈り下さい。



JOECS 1979-2002



カルガリ日系福音教会



ラベンダー牧師
シンディー夫人
ノア君 (4 1/2) イサン君 (3)

ラベンダー牧師 (英語部)

昨年は CJGC の英語部にとって転換期でしたが、この 6 ヶ月間に神は、素晴らしいことをなしてくださいました。英語部リーダーシップチーム

(ELT) では神が私たちが何処へ導いてくださるのかを明らかにするため努力をしています。新しい集会の、家族全体

向けのプログラムは順調にっており、特に若者や子供たちの為のプログラム AWANA は成果を上げています。また、私達の教会は祈りを重視することも始めました。教会の方の祈りのリクエストを E-Prayer に更新したり、大人のバイブルスタディやスモールグループでも祈りをより重視することを始めました。

昨年の夏より、テーマをもって礼拝を行っており、秋には、神が望まれる教会になることを目指した“あなたが常に求めていた教会”をテーマにし、クリスマスからは、アウトリーチシリーズの中より“なぜ神?”をテーマとしました。

私達は、礼拝に参加される未信者の方々の中に神が引き続き働いて下さることを祈っています。

谷口洋一牧師 (日本語部)



谷口洋一牧師、ミユキ夫人
アガサさん (17) マナさん (10)

9月の秋のリトリートでは、シアトルのタコマ教会の竹内正臣師をお迎えしました。「あなたが燃やされる信仰の秘訣」と題し、教会の霊的闘い (Spiritual Warfare) にも触れ、私共の教会だけでなく、エドモントンやレスブリッジからもたくさんの方が与えられ、より開かれたリトリートとなりました。

平日の活動として、地域別に 4 箇所、それぞれ信徒の家庭を解放していただき、家庭集会 ABF (Agape Bible Fellowship) を持ち、Purpose Driven Life の本をテキストに、聖書を学んでいます。11 月から 1 月にかけて、4 人の受洗者を主が備えてくださいました。そのなかの 3 人は、ABF から導かれました。受洗者 4 人に加え、さらに 3 人の方がメンバーシップを取られ、CJGC のキリストのからだに加えられました。教会にとって大きな祝福です。

また、サンデー・スクール (成人クラス) では、現在ビデオによる「ヤベツの祈り」シリーズを学んでいます。2006 年は、主がミニストリーの地境を大いに広げてくださいますように願い、期待しています。

トロント日系福音教会

戒崎レイ牧師



戒崎牧師、実奈子夫人
ショーン君 (4)
クリスティちゃん (2)

昨年よりトロント日系福音教会は、活気に溢れています。2005 年の“40 日の目的キャンペーン”中の大きな祝福に引き続き、未だのその実りを見ることができます。多くの方の受洗が与えられたこともキャンペーンの実でしたが、それだけではなく、多くのスモールグループも始められました。

教会の 5 つの目的の 1 つに宣教がありますが、教会の若者達は、この宣教について考えるチャレンジの時となりました。賜物に恵まれたユースリーダー、ミシェルはキャンパスクルセードを通してに東アジアで一年間奉

仕の最中で、また上田ケ빈は OMF を通して日本の青森で宣教師として奉仕するために出発しました。若者達の心が主の召命、自分の人生に対する神の計画に対し、開かれていることを神に感謝します。教会建設計画も奇跡的な形で続けられています。私達の希望するスカボロー地区に教会建設可能な土地は現在もう残されていません。しかし主は 1.5 エーカーの土地を、しかも私達の必要に見合ったその地区に与えてくださいました。

順調にいけば、今年の 10 月か 11 月に着工予定です。引き続き教会建設の為にお祈りください。私たちは「主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなし。」(詩篇 127 : 1) という事を知っています。*

